

## 第2部 生活復興感

### 第1章 生活復興感尺度の結果

2001年、2003年調査と同様に「生活の充実度」「生活の満足度」「1年後の生活の見通し」の3つに関する質問項目を設けた。

生活充実度に関しては、「あなたは現在の生活を、震災前の生活と比べてどのように感じておられますか」と問い、「忙しく活動的な生活を送ることは」、「自分のしていることに生きがいを感じることは」、「まわりの人びととうまくつきあっていくことは」、「日常生活を楽しく送ることは」、「自分の将来は明るいと感じることは」、「元気ではつつとしていることは」、「仕事の量は」、の計7項目について、「かなり減った～かなり増えた」の5選択肢で回答を求めた。(問26)

生活の満足度については、「あなたは現在、つぎにあげたことがらについて、どの程度満足されていますか」と問い、「毎日のくらしに」、「ご自分の健康に」、「今の人間関係に」、「今の家計の状態に」、「今の家庭生活に」、「ご自分の仕事に」、の計6項目に対して、「たいへん不満である～たいへん満足している」の5選択肢で回答を求めた。(問28)

1年後の生活の見通しについては、「1年後のあなたを想像してください。あなたは今よりも生活が良くなっていると思いますか、どうですか。」として、「かなり良くなる～かなり悪くなる」までの5選択肢を与えた。(問30)

これら3種類の質問群を、質問紙の中で異なった場所でたずねた。

得られた回答により、これら計14項目が「生活復興感」という1つの潜在変数をはかっているかどうかを確認するために、因子分析を行った。その結果1因子が抽出された。

つまり、14項目は確かに1つの潜在変数をはかっていることがわかり、この潜在変数を「生活復興感」と名づけ、2001年、2003年調査に引き続き、2005年調査においても分析の対象とした。(表2-1)

表 2-1 2005 年度生活復興感尺度・因子分析結果(N=1028)

		因子負荷量	共通性
問 26	震災前と比べて増えましたか？減りましたか？		
	1 忙しく活動的な生活を送ること	0.535	0.778
	2 生きがいを感じることに	0.747	0.714
	3 まわりの人々とのつきあい	0.648	0.610
	4 日常生活を楽しく送ること	0.794	0.758
	5 将来は明るいと感じること	0.781	0.667
	6 元気ではつらつとしていること	0.791	0.736
	8 仕事の量	0.388	0.813
問 28	あなたの満足度は？		
	1 毎日の暮らし	0.768	0.775
	2 自分の健康	0.619	0.496
	3 今の人間関係	0.654	0.579
	4 今の家計の状態	0.634	0.664
	5 今の家庭生活	0.682	0.689
	6 自分の仕事	0.658	0.636
問 30:c	1年後のあなたは？ 今より生活がよくなっていますか？	0.516	0.319
固有値		6.247	
寄与率 (%)		44.622	

「生活復興感」の全体傾向について、2001 年調査、2003 年調査、2005 年調査の比較を行った。

具体的な方法としては、それぞれの調査での生活復興感に関する 14 設問に対する回答を得点化し、各年の生活復興感得点とした。(表 2-2)

表 2-2 生活復興感・得点表

		かなり 増えた	少し 増えた	変わら ない	少し 減った	かなり 減った
問26	震災前と比べて増えましたか？減りましたか？					
1	忙しく活動的な生活を送ること	5点	4点	3点	2点	1点
2	生きがいを感じる事	5点	4点	3点	2点	1点
3	まわりの人々とのつきあい	5点	4点	3点	2点	1点
4	日常生活を楽しく送ること	5点	4点	3点	2点	1点
5	将来は明るいと感じること	5点	4点	3点	2点	1点
6	元気でつらつとしていること	5点	4点	3点	2点	1点
8	仕事の量	5点	4点	3点	2点	1点
問28	あなたの満足度は？	いつも ある	たびた びある	たまに ある	まれに ある	まった くない
1	毎日のくらし	5点	4点	3点	2点	1点
2	自分の健康	5点	4点	3点	2点	1点
3	今の人間関係	5点	4点	3点	2点	1点
4	今の家計の状態	5点	4点	3点	2点	1点
5	今の家庭生活	5点	4点	3点	2点	1点
6	自分の仕事	5点	4点	3点	2点	1点
問30:c	1年後のあなたは？	かなり 良くなる	やや 良くなる	変わら ない	やや 悪くなる	かなり 悪くなる
	今より生活がよくなっていますか？	5点	4点	3点	2点	1点

- ・被災者の生活復興感は2003年に比べてやや上昇した。
- ・生活復興感の高い人と低い人とのばらつきが広がる傾向が見られた。

2001年調査、2003年調査、2005年調査における生活復興感得点の代表値を比較すると、統計的に意味のある差異があった ( $F(2, 2387) = 3.863, p < .05$ ) (図 2-1)

生活復興感は、2001年(平均 40.6)から2003年(平均 39.9)にかけては、ほとんど変動がなかったが、2003年(平均 39.9)から2005年(41.2)にかけてはやや上昇( $p < .05$ )した。

また、年を追うにつれて、生活復興感の高い人と低い人とのばらつきが広がっていることがわかった(標準偏差: 8.70(2001年) 9.62(2003年) 9.87(2005年))。

2001年調査から2005年調査までの結果をみると、この4年間の生活復興感の推移は、この間のわが国の景気動向によって説明できると考えられる。図 2-2 の日経平均株価の推移をみると、2001年から2003年にかけて、日本経済は低迷のどん底にいたが、2003年を底に、2005年にかけて回復基調がみられた。こうした景気動向と生活復興感とは、図で明らかなように高い相関を有しており、経済の再建が生活復興の重要な側面であることが指摘できる。

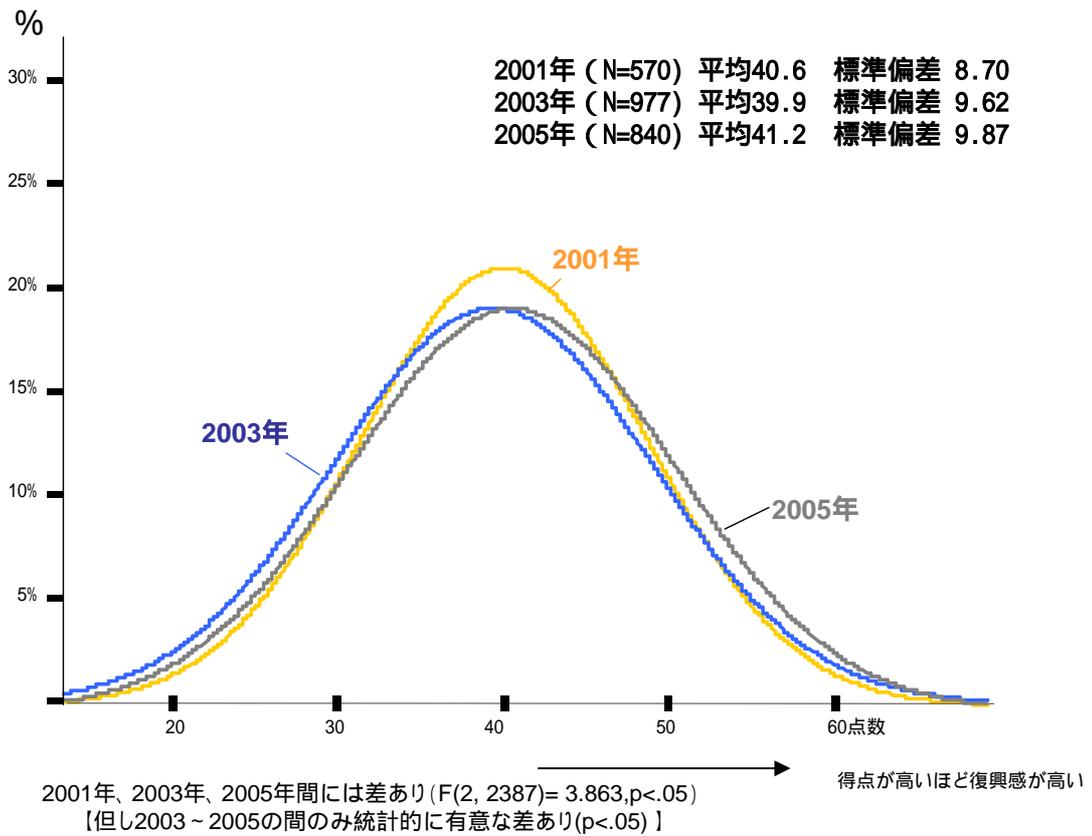


図 2-1 生活復興感の3時点における得点分布

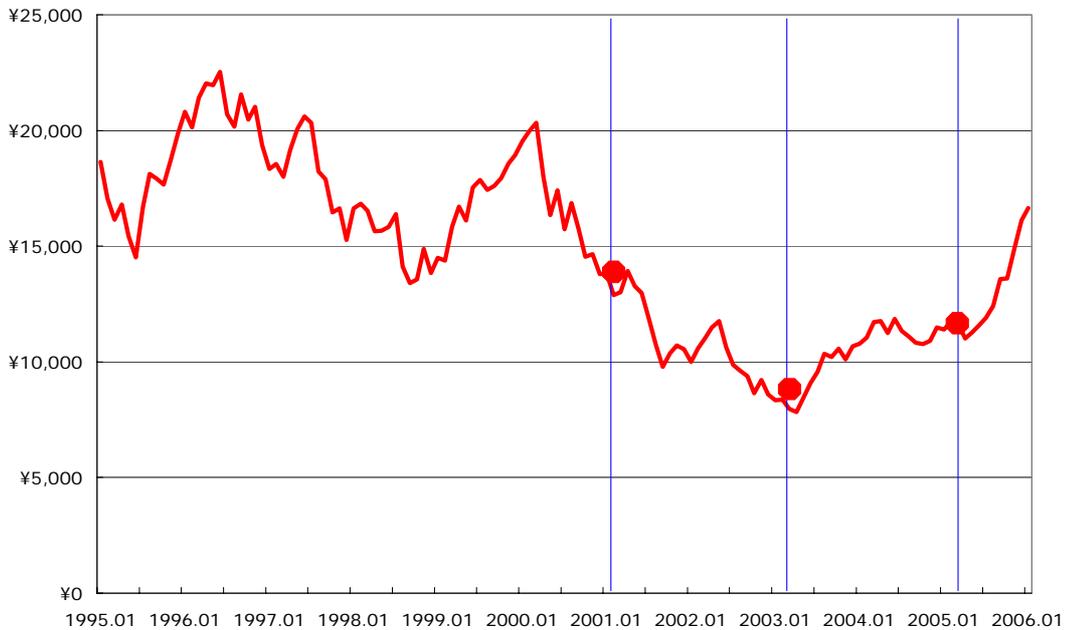


図 2-2 調査時期と日経平均株価との関係 ( が調査時期)

## 第2章 生活復興感を規定する生活再建課題

本章においては、2001年、2003年調査に引き続き、生活再建課題7要素\*と生活復興感との関連を調べた。

\*「生活再建課題7要素」とは、震災5年目に被災地で行われた神戸市震災復興検証の市民ワークショップにおける言語データを集約した結果、導き出された7つの要素(すまい・人と人とのつながり・まち・そなえ・こことからだ・くらしむき・行政とのかかわり)である。

### 1. すまい

#### 地域への永住希望と生活復興感

・現在の地域ですっと暮らしていきたいと思っている人の生活復興感が高かった。

すまいの永住希望と生活復興感との関連をみると、2003年調査では、地域への永住を希望している人と希望していない人の生活復興感には、統計的に意味のある差はなかったが、2005年調査では、統計的に意味のある差があることがわかった。

現在の地域ですっと暮らしていきたいと思っている人の生活復興感が高く、今後引っ越したいと考えている人の生活復興感は低かった。

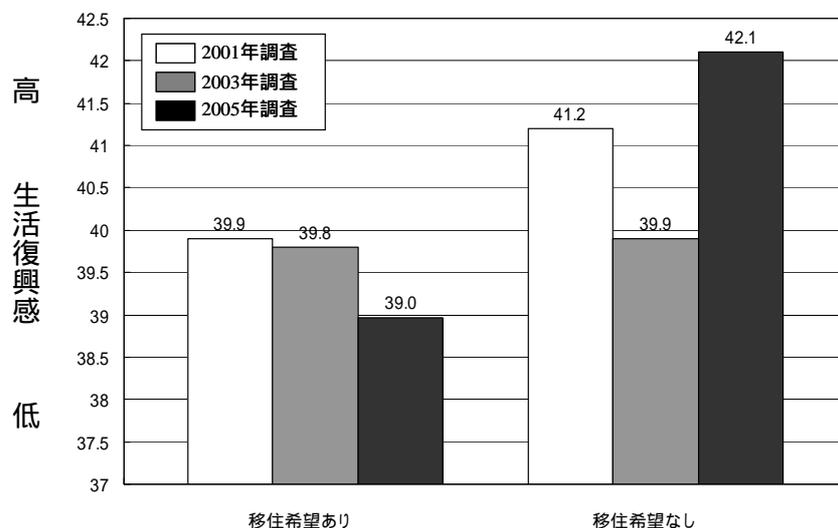


図 2-3 生活復興感 (永住希望)

### すまい満足度と生活復興感

- ・すまい満足度の高い人ほど、生活復興感が高かった。

現在のすまいの満足度と生活復興感との関連をみると、現在自分が居住しているすまいの満足度が高い人ほど生活復興感が高く、すまいの満足度が低い人ほど生活復興感が低かった。なお、この傾向は、2003年調査でも同様であった。

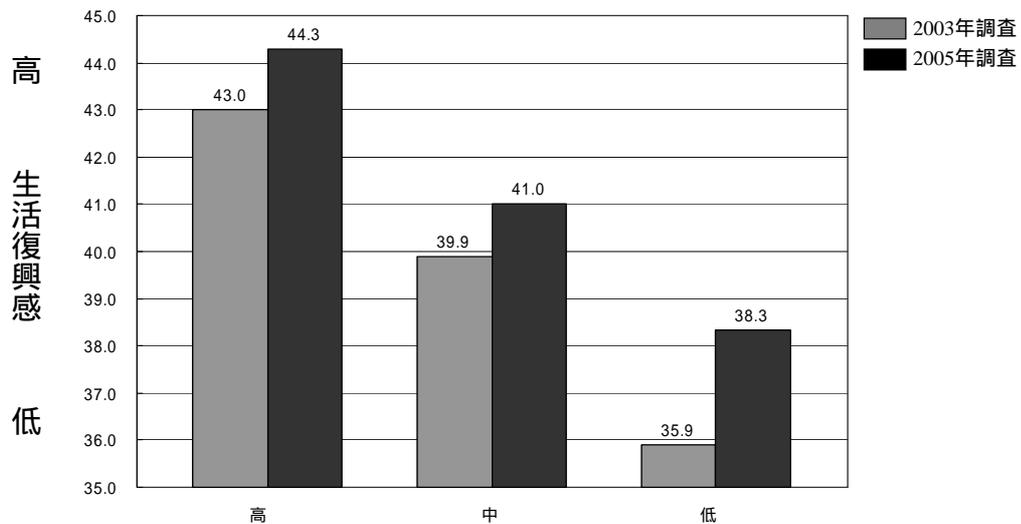


図 2-4 生活復興感（すまい満足度）

### 住居形態と生活復興感

- ・社宅・寮、民間分譲集合住宅、持地持家に居住している人の生活復興感が高かった。
- ・公営住宅に居住している人の生活復興感が低かった。

住居形態と生活復興感の関連をみると、社宅・寮、民間分譲住宅、持地持家などに居住している人の生活復興感が高く、公営住宅に居住している人の生活復興感が低かった。なお、この傾向は、2001年、2003年調査でも同様であった。

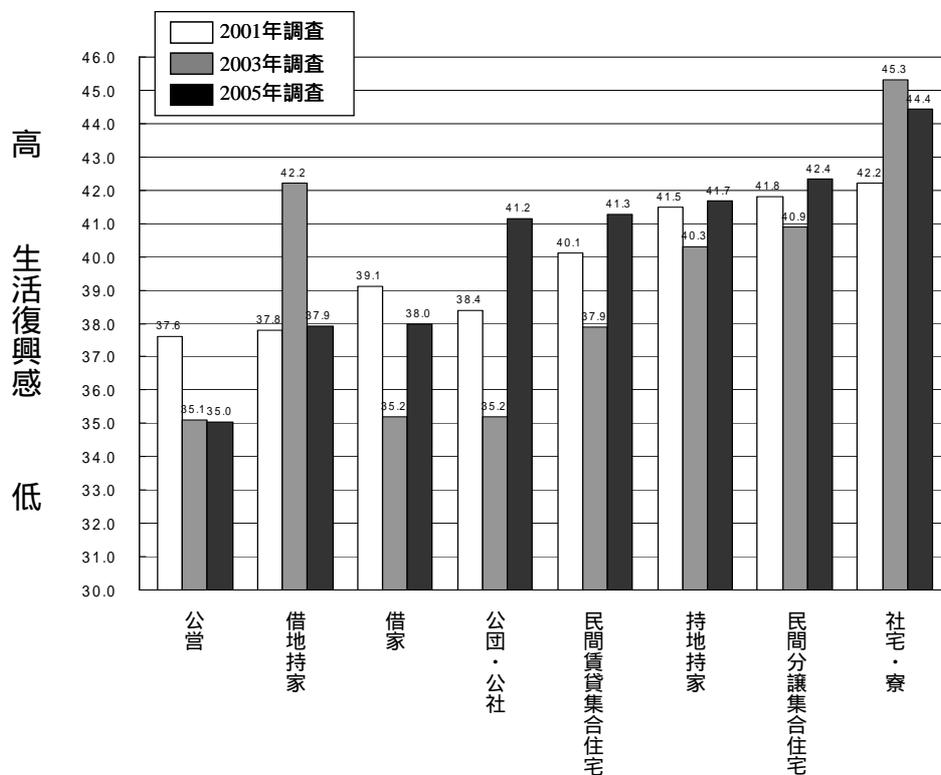


図 2-5 生活復興感生活復興感（すまいの形態）

## 2. 人と人とのつながり

### 市民性と生活復興感

- ・市民性が高い人ほど、生活復興感が高かった。

市民性と生活復興感との関連をみると、市民性が高い（自律・連帯する意識が高い）人の生活復興感が高く、市民性が低い人の生活復興感は低かった。

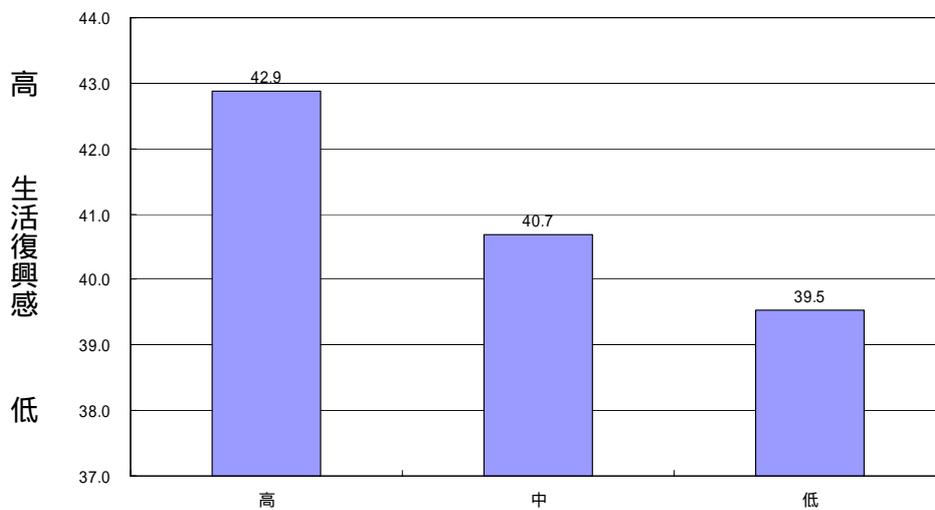


図 2-6 生活復興感（市民性）

#### 社会的信頼（社会に対する信頼意識）

- ・社会に対する信頼の意識が高い人ほど、生活復興感が高かった。

社会に対する信頼の意識と生活復興感との関連をみると、社会に対する信頼の意識が高い（他者に対して「基本的に正直である」「ほとんどの人は信頼できる」と思っている）人は生活復興感が高く、信頼の意識が低い人は生活復興感が低かった。

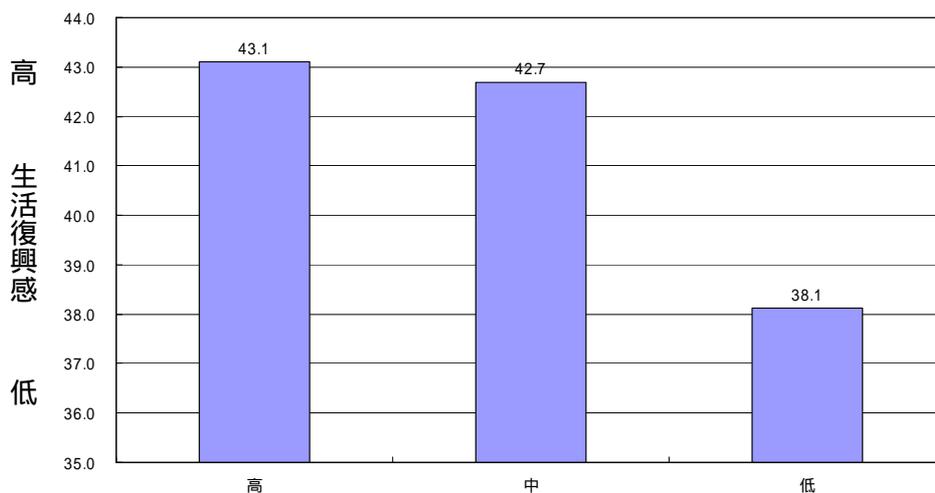


図 2-7 生活復興感（社会的信頼）

### 近所づきあい・地域活動と生活復興感

- ・近所づきあいや地域活動に積極的な人ほど、生活復興感が高かった。

近所づきあい（「近所におすそわけをする家がある」「近所に世間話をする人がいる」など）や地域活動（「まちのイベントに参加している」「地域でのボランティア活動をしている」など）の度合いと生活復興感との関連をみると、近所づきあいや地域活動に積極的な人は生活復興感が高く、積極的でない人は生活復興感が低かった。

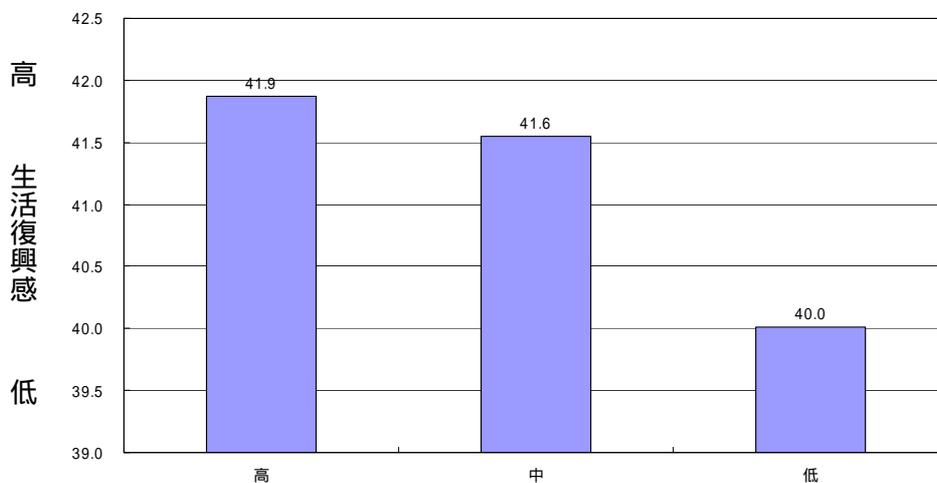


図 2-8 生活復興感生活復興感（近所づきあい・地域活動）

### 家族関係と生活復興感

- ・家族間の心理的な結びつき（きずな）の距離が遠い（バラバラ）人の生活復興感が低かった。
- ・家族関係のかじとり（リーダーシップ）について、中庸なバランスの取れた（きっちり・柔軟）人は生活復興感が高かった。

家族関係の「きずな」（心理的な結びつき）と生活復興感との関連をみると、心理的な結びつきの距離が遠い（バラバラ）人の生活復興感が非常に低かった。

また、2001年、2003年調査では、中庸な結びつき（サラリ、ピッタリ）の人の生活復興感が高かったが、今回は、家族関係が非常に密着している（ベッタリ）人の生活復興感が最も高かった。

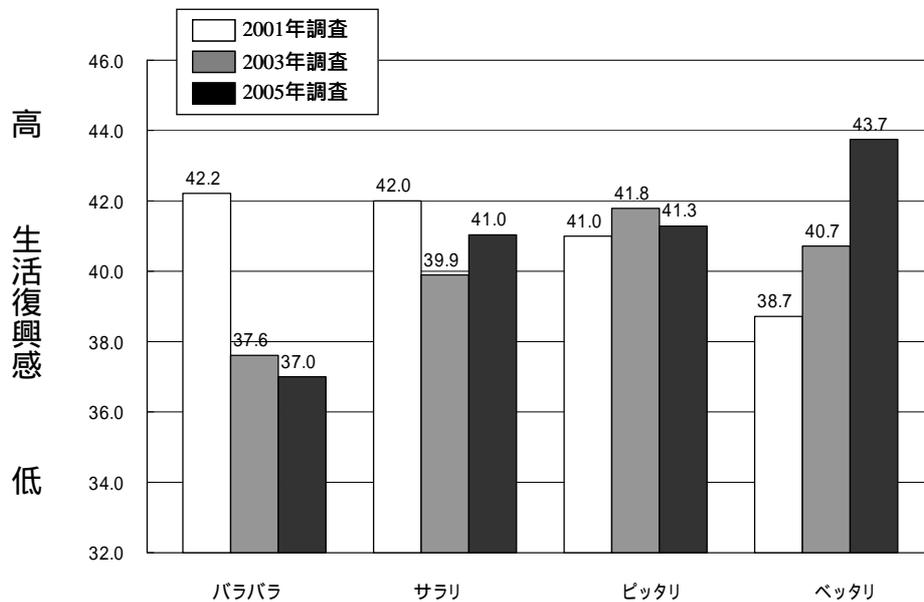


図 2-9 生活復興感（家族のきずな）

また、家族関係の「かじとり」(リーダーシップ)と生活復興感との関連をみると、家族関係のかじとりにバランスの取れた（キッチリ、柔軟）人の方が、バランスの取れていない（融通なし、てんやわんや）人より生活復興感が高かった。

なお、この傾向は、2001年、2003年調査と同様であった。

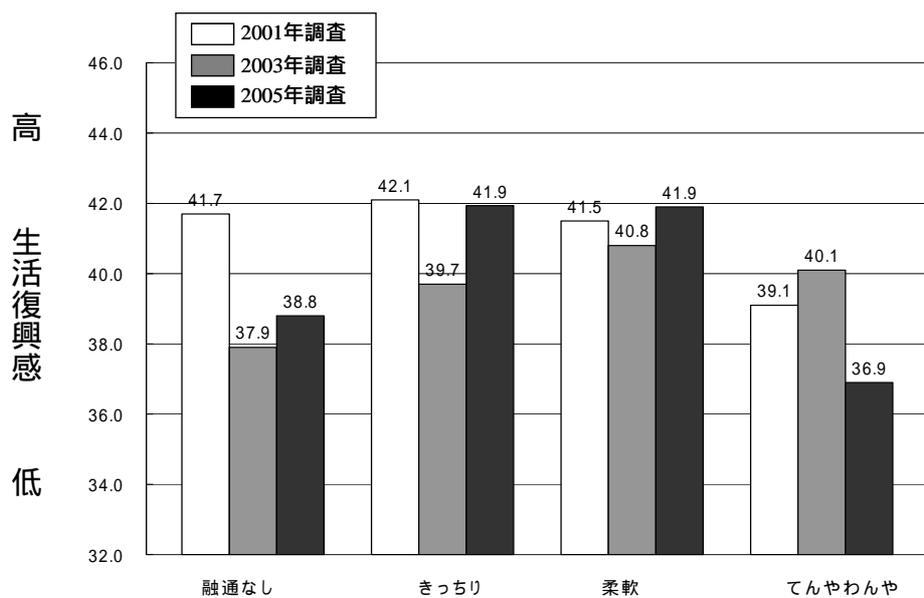


図 2-10 生活復興感（家族のかじとり）

### 他者や周囲に対する態度と生活復興感

- ・他者や周囲に対して、持ちつ持たれつ関係を重視する「世間志向」タイプの人の生活復興感が高く、個人分離の関係を重視する「社会志向」タイプの人の生活復興感は低かった。

他者や周囲に対する態度と生活復興感との関連をみると、持ちつ持たれつ関係を重視する「世間志向」タイプの人の生活復興感が高く、個人分離の関係を重視する「社会志向」タイプの人の生活復興感は低かった。

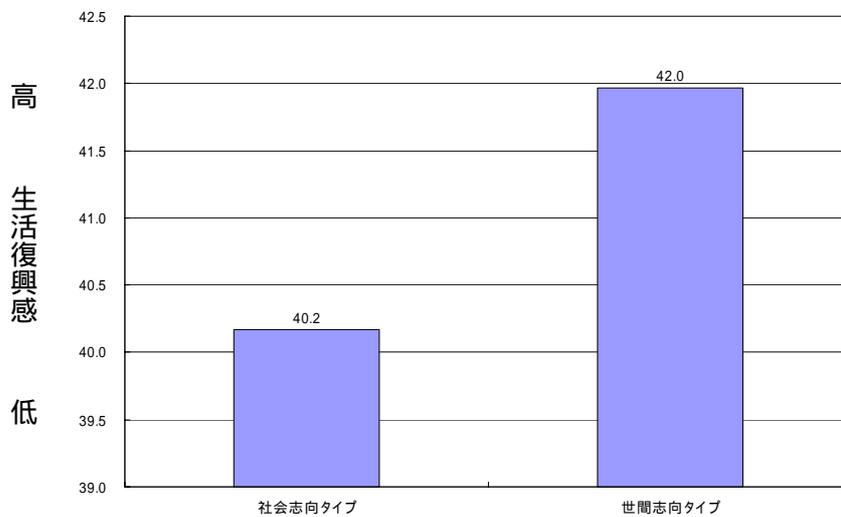


図 2-11 生活復興感（世間的、社会的なつながり）

## 3 . まち

### まちの復興速度感と生活復興感

- ・自分が生活するまちの復興の速度が「速い」と感じている人の生活復興感が高く、「遅い」と感じている人の生活復興感は低かった。

自分の「まち」の復興の速度を「かなり速い」「やや速い」と答えた人に「速い」、「ふつう」と答えた人に「ふつう」、「やや遅い」「かなり遅い」と答えた人に「遅い」の 카테고리を与え、生活復興感との関連をみた。

まちの復興の速度が「速い」と感じている人の生活復興感が高く、「遅い」と感じている人の生活復興感は低かった。

なお、この傾向は、2001年調査、2003年調査でも同様であった。

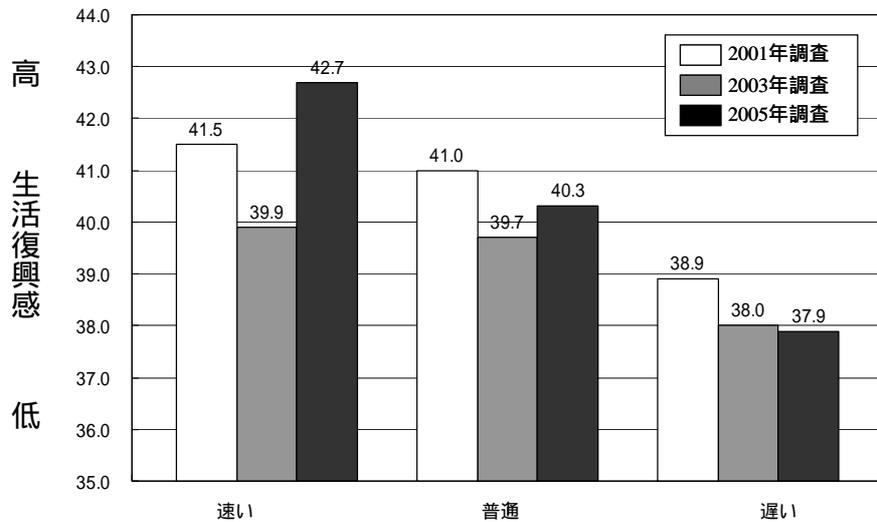


図 2-12 生活復興感（まちの復興速度感）

#### 地域の夜の明るさと生活復興感

- ・地域の夜の明るさが「震災前よりも明るくなった」と感じている人の生活復興感が高く、「震災前よりも暗くなった」と感じている人の生活復興感が低かった。

地域の夜の明るさと生活復興感との関連をみると、夜の明るさが「震災より明るくなった」と感じている人の生活復興感が高く、「震災前よりも暗くなった」と感じている人の生活復興感は低かった。

なお、この傾向は、2001年調査、2003年調査でも同様であった。

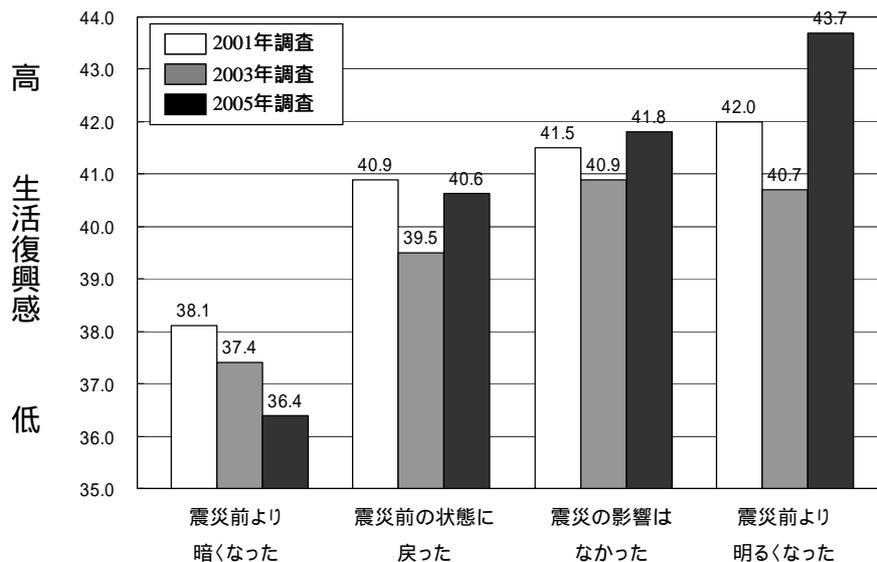


図 2-13 生活復興感（まちの明るさ）

#### まちの共有物（コモンズ）と生活復興感

- ・まちの共有物（コモンズ）の認知や愛着の度合いが高い人の生活復興感が高く、愛着の度合いの低い人の生活復興感は低かった。

まちの共有物への認知や愛着の度合いと生活復興感との関連をみると、自分の生活するまちにある共有物（公園、街並み、みんなが気軽に集まれる場所など）」の認知や愛着の度合いが高い人は生活復興感が高く、自分の住むまちへの愛着の度合いが低い人の生活復興感は低かった。

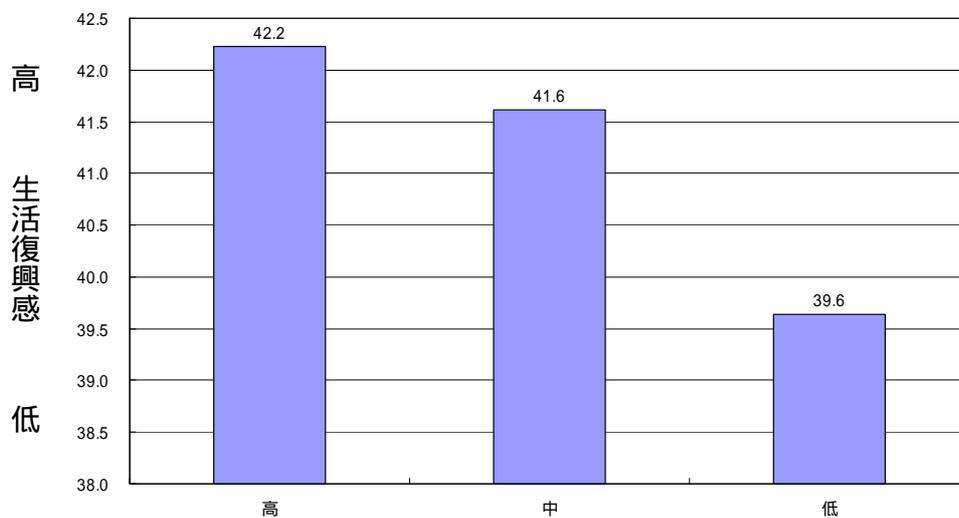


図 2-14 生活復興感（まちのコモンズ）

## 4 . そなえ

#### 被害予測（将来の災害に対する不安）と生活復興感

- ・将来の災害による被害を低く予測している人の生活復興感が高く、高く予測している人の生活復興感は低かった。

将来起こりうる災害への被害予測と生活復興感の関連をみると、将来の災害による被害を低く予測している人の生活復興感が高く、被害を高く予測している人の生活復興感は低かった。

なお、この傾向は、2003年調査と同様であった。

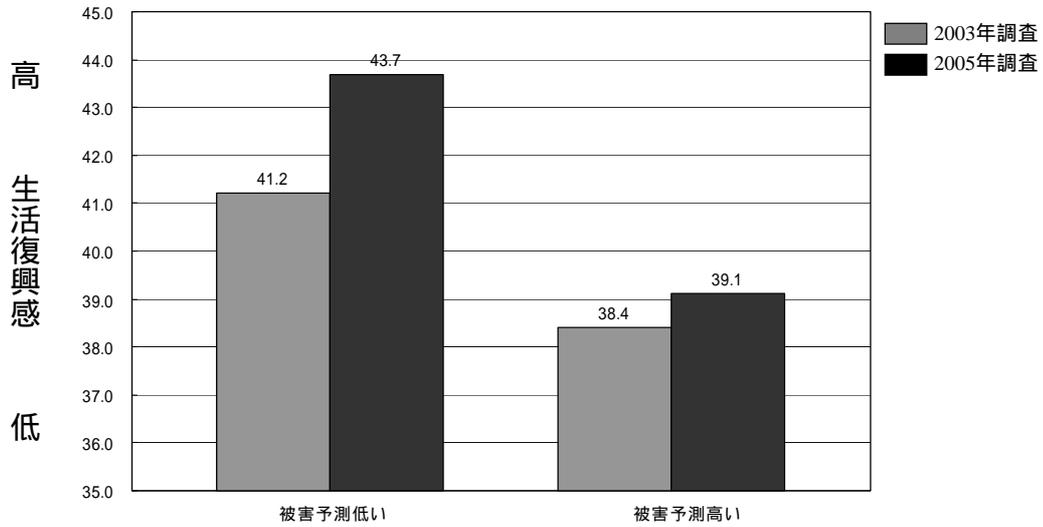


図 2-15 生活復興感（東南海・南海地震被害予測）

## 5 . 心とからだ

### 心・からだのストレスと生活復興感

- ・心とからだのストレスが低い人ほど、生活復興感が高かった。

心とからだのストレスと生活復興感の関連をみると、ストレスが低い人の生活復興感が高く、ストレスが高い人の生活復興感は低かった。

なお、この傾向は、2001 年、2003 年調査と同様であった。

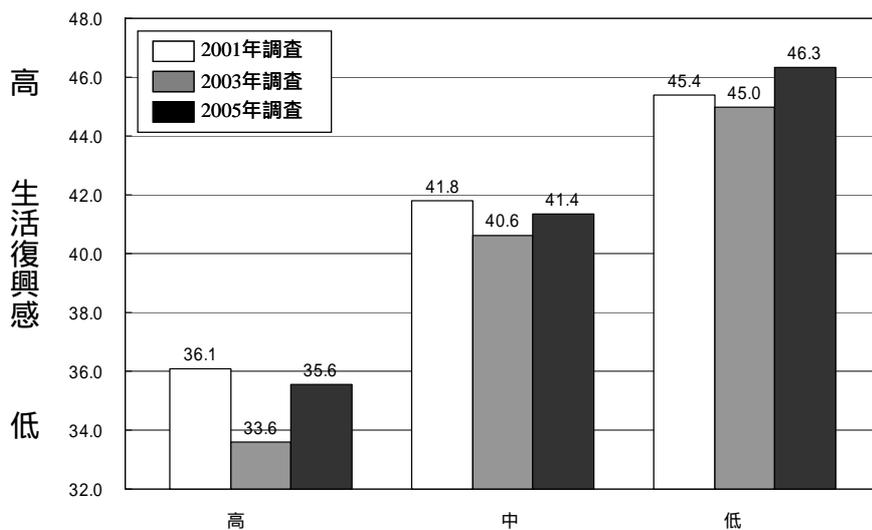


図 2-16 生活復興感生活復興感（心のストレス）

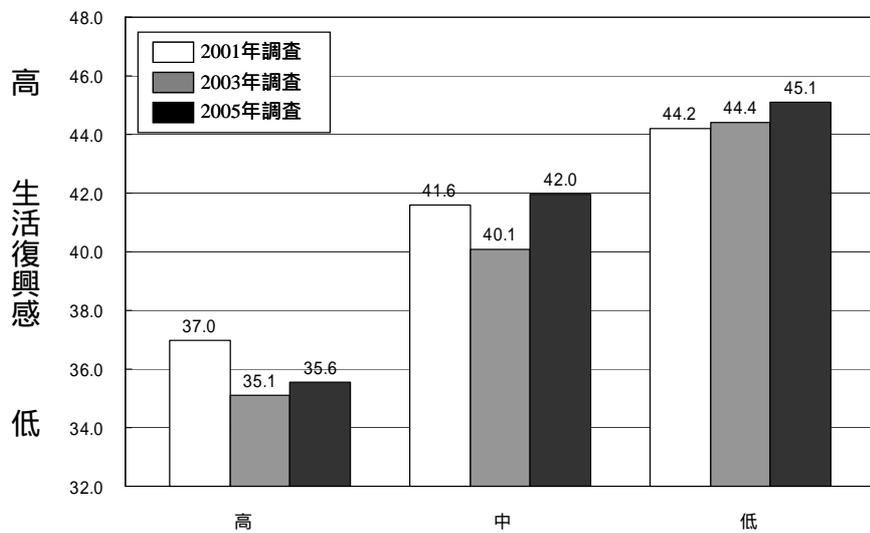


図 2-17 生活復興感生活復興感（からだのストレス）

## 6. くらしむき

### 家計の収支と生活復興感

- ・家計の収支が震災前に比べて「好転」の人の生活復興感が高く、「悪化」の人の生活復興感は低かった。

家計の収支と生活復興感の関連をみるため、家計に関する回答結果を次のように整理した。

収入・預貯金については、震災前に比べて「増えた」とした回答には+1点を、「変わらない」には0点、「減った」とした回答には-1点を与えた。支出については、震災前に比べて「増えた」とした回答には-1点、「変わらない」には0点、「減った」と回答した人には1点を与えた。

回答者ごとに収入、預貯金、支出について得点を足しあわせ、+の得点をなったものを「好転」、0となったものを「トントン」、-の値をなったものを「悪化」とした。

その結果、家計収支が「好転」の人の生活復興感が高く、「悪化」の人の生活復興感は低かった。なお、この傾向は、2001年、2003年調査と同様であった。

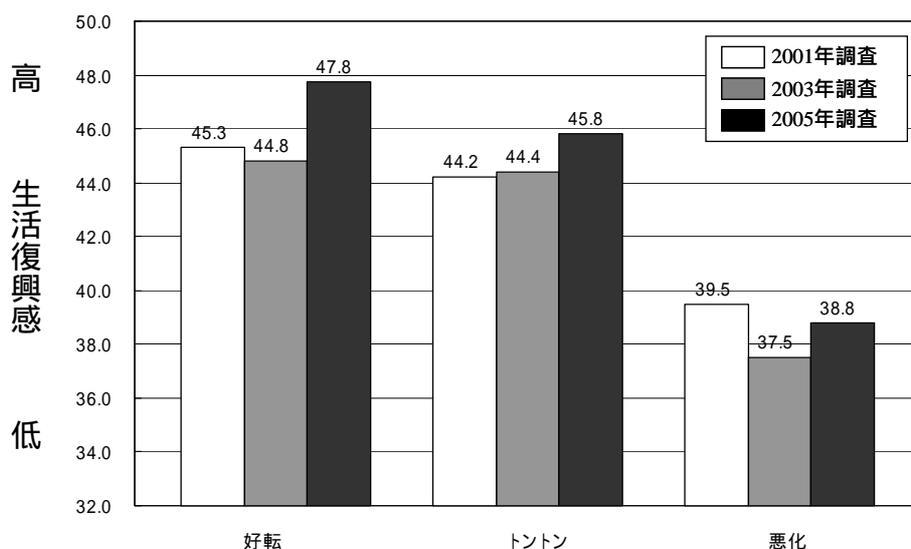


図 2-18 生活復興感（家計収支）

## 7 . 行政とのかかわり

### 行政とのかかわりと生活復興感

- ・共和主義的な考え方（公共的なことからは、市民の積極的な参画によって担われるべきだという考え方）の人の生活復興感が高かった。

行政とのかかわり方と生活復興感との関連をみると、共和主義的な考え方の人は生活復興感が高く、後見主義的な考え方（地域の問題や公共的な事柄はすべて行政にまかせておけばいいという考え方）の人の生活復興感は低かった。

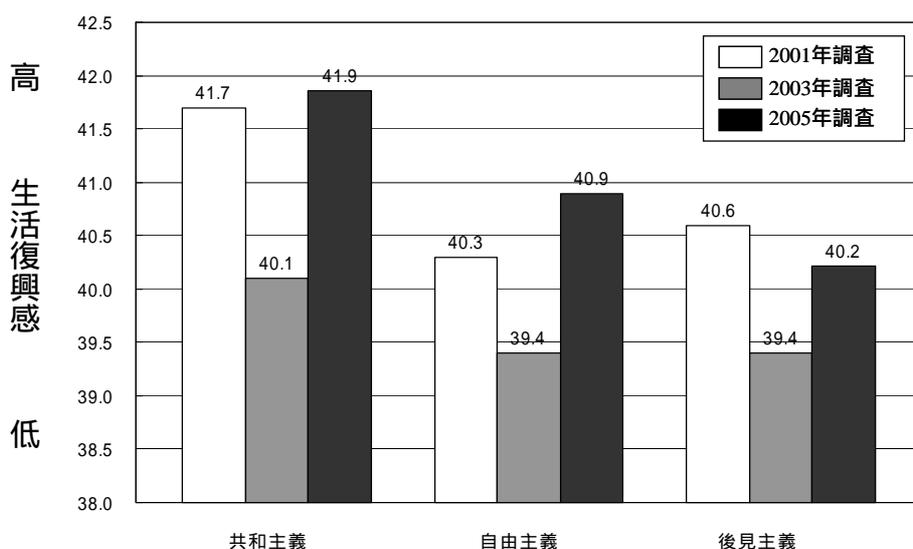


図 2-19 生活復興感（行政とのかかわり）

### まちの公共物への自己負担意識(Willingness to Pay)

- ・公園の維持管理や地域の行事・活動などに対する金銭的な自己負担の意識が高い人ほど、生活復興感が高かった。

まちの公共物への自己負担意識については、近所の公園の維持管理、地域の行事（祭り・運動会等）、地域活動・市民活動に、年間いくらまでなら費用を負担できるかを金額で尋ねた。

得られた回答をもとに、0円、1000円未満、1000円～2999円、3000円以上の4つに分類し、まちの公共物への自己負担意識指標として得点化した。

まちの公共物への自己負担意識と生活復興感との関連をみると、自分のまちの公共物に対する金銭的な自己負担意識の高い人は生活復興感が高く、自己負担をあまりしたくないという意識の人の生活復興感は低かった。

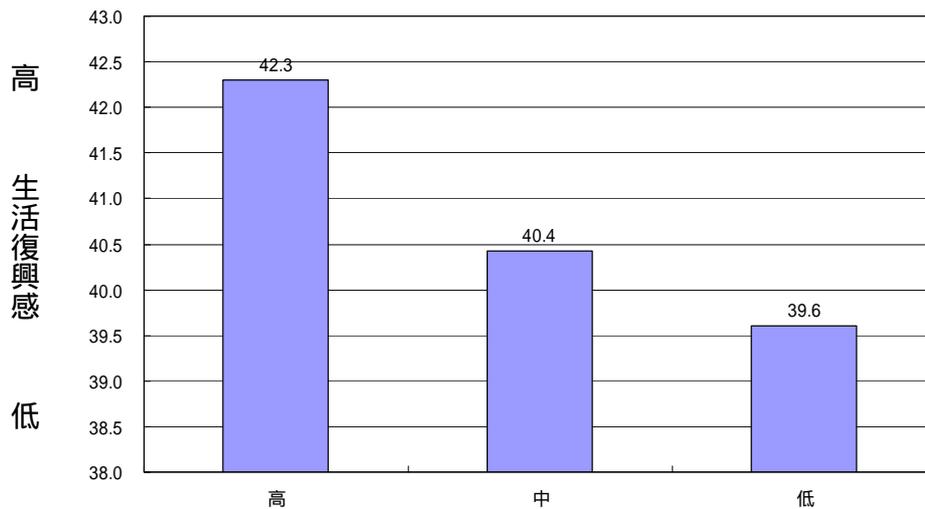


図 2-20 生活復興感（公共物への自己負担意識）

### 第3章 地域や職業による生活復興感の違い

#### 1. 地域による違い

- ・生活復興感が高かったのは、猪名川町、東灘区、淡路、西区、明石市、須磨区であり、生活復興感が低かったのは、長田区、兵庫区、中央区、宝塚・川西市である。

地域別の生活復興感をみると(図 2-21)、生活復興感が高かったのは、猪名川町、東灘区、淡路、西区、明石市、須磨区であり、生活復興感が低かったのは、長田区、兵庫区、中央区、宝塚・川西市であった。

また、2003年調査と比較すると、16地域のうち13地域で生活復興感が上がり、特に、東灘区、猪名川町、西区、須磨区、淡路、明石市で大きな上昇がみられた。一方で、生活復興感が下がったのは、宝塚・川西市、兵庫区、芦屋市の3地域だけだった。

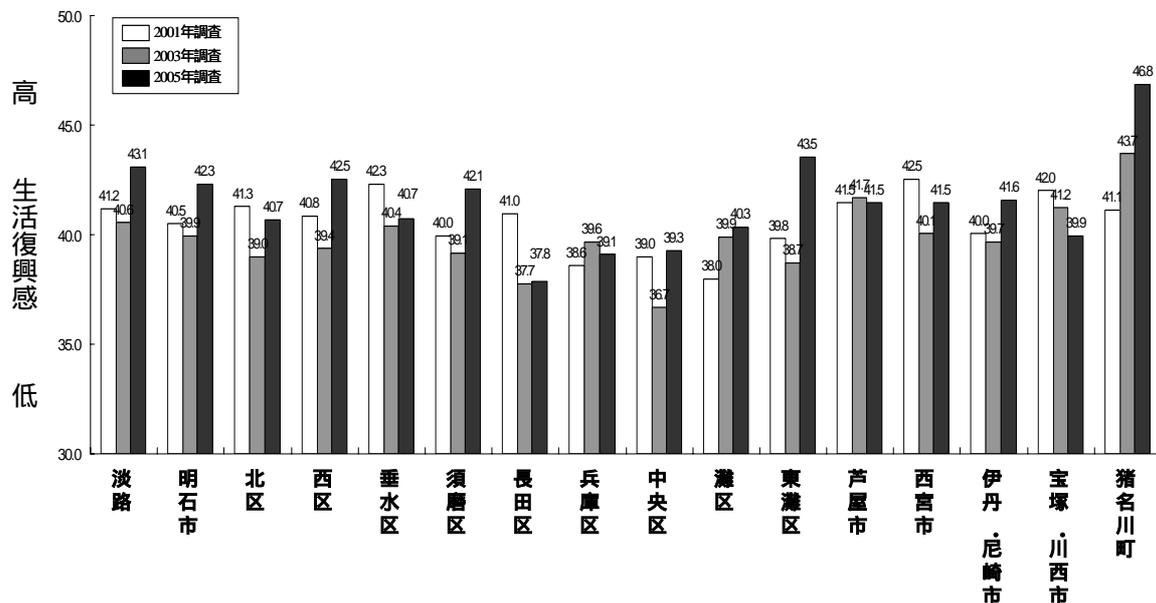


図 2-21 生活復興感(地域別)

## 2. 職業による違い

- ・生活復興感が高かったのは、学生、管理職、専門・技術職であり、生活復興感が低かったのは、無職、商工自営業、産業労働者である。

職業別の生活復興感をみると(図 2-22)、生活復興感が高かったのは、学生、管理職、専門・技術職であり、生活復興感が低かったのは、無職、商工自営業、産業労働者であった。

また、2003 年調査と比較すると、農林漁業を除くすべての職業で生活復興感が上がり、特に 59 歳以下の無職、サービス関連従事者、専門技術職、商工自営業、産業労働者で大きな上昇がみられた。

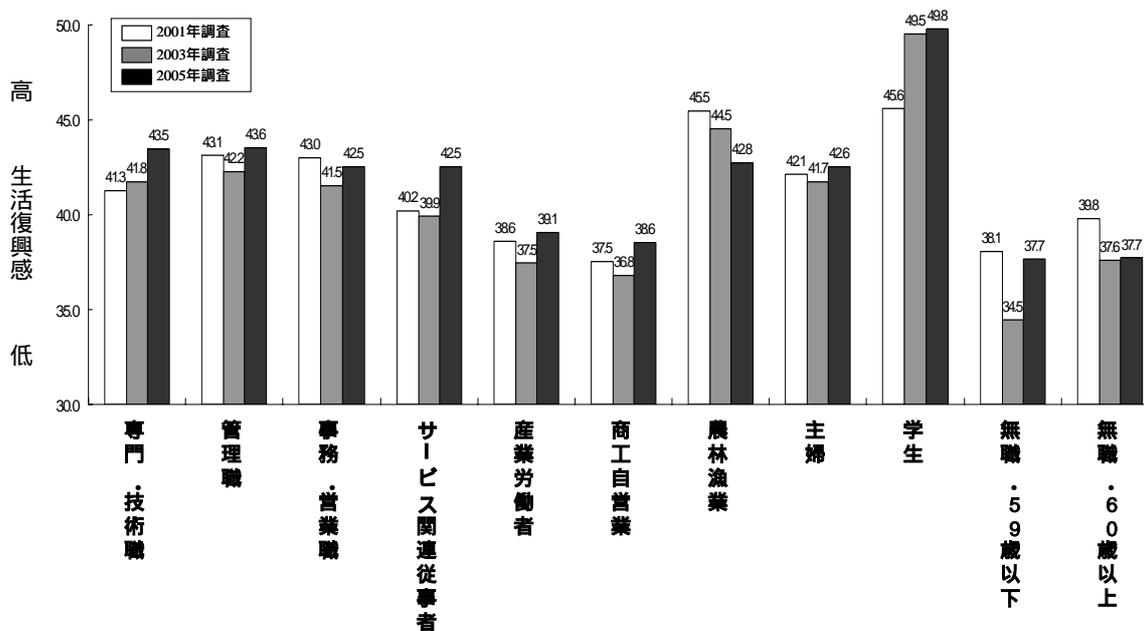


図 2-22 生活復興感（職業別）